

### 実践事例

- 1 世田谷区立山野小学校
- 2 練馬区立豊溪小学校
- 3 立川市立けやき台小学校
- 4 小平市立小平第六小学校
- 5 多摩市立多摩第一小学校

推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発するなど、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



## 1 (1) 世田谷区立山野小学校 ～生活科と国語科を関連させた指導～

実施日：平成26年10月9日(木)、20日(月)  
13:30～14:30(第5校時)  
実施対象：第2学年(147名)  
動物：ウサギ(6羽)、イヌ(2頭)

### 【実践の概要】

第2学年の生活科「生きものとともにだち」と国語科「見て、聞いて、さわって」を関連させた指導を行った。生活科では、生命について考える時間を設けたり、動物との触れ合いで気付いたことをメモしたりする活動を行った。国語科では、そのことを基に作文にまとめ、発表し合う活動を行った。



イヌの心音を聴いている様子

### (1) 生活科「生きものとともにだち」

動物との触れ合いの時間では、学校のウサギ2羽に加え、近隣の小学校からウサギを4羽借り、さらに学校担当獣医師がイヌを2頭連れてきてくれ、2学級ずつ2回に分けて実施した。児童は、イヌの体を触って聴診器で心音を聴いたり、ウサギを観察したりした。また、学校担当獣医師に動物との触れ合い方についての指導を受けながら、質問をしていた。

### (2) 国語科「見て、聞いて、さわって」

動物観察の際のメモを基につながりのある文や文章を書くことに気を付け、単元末にはその書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う活動を行った。



ウサギとの触れ合いの様子

### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師との事前の打合せでは、児童の興味・関心、ウサギの観察方法などについて話し合い、各観察場所に保護者の協力を得ることを決めた。また、学校担当獣医

師から、ウサギ以外の動物との触れ合いや心音を聴く活動について導入することの提案があった。

### 【児童の反応】

- 生活科と国語科を関連させたことは効果があった。児童は、実際に動物に触れたことにより、従来よりも、体験した内容を具体的に作文に書けるようになった。
- 学校担当獣医師から動物についての専門的な話を聞くことによって、児童の興味・関心はより一層高まっていった。
- 児童は、ウサギとイヌについて知りたいことを事前にまとめていたため、目的意識をもって観察することができた。また、ウサギやイヌの観察を行い、聴診器で心音を聴いたことは、生命の不思議さ、大切さを実感することにつながった。

## 1(2) 世田谷区立山野小学校 ～総合的な学習の時間におけるキャリア教育～

実施日：平成26年11月27日(木)

13:30～14:30 (第5校時)

実施対象：第6学年(184名)

### 【実践の概要】

総合的な学習の時間において、学校担当獣医師から仕事に取り組む姿勢や、獣医師としての思いや夢について、語りかけてもらった。



獣医師の模擬手術の様子

児童は、生命を扱う仕事の過酷さやそれに向かう獣医師の思いや願いを感じ、生命の重みについて改めて考える機会となった。

### 【学校担当獣医師との連携】

学校担当獣医師と学級担任、管理職で事前に打ち合わせを行った。特に、授業のねらいについて共通理解を図りながら、各学級でそれぞれの獣医師の個性を生かした内容を行うこととした。

### 【児童の反応】(児童の感想文から)

- 「命を守る」ということは大変だけど、素晴らしいことだと思います。獣医は休みが少なくつらい仕事だけど、それをできるのはやっぱり動物が好きだからだと感じました。「動物の命を救えるのがやりがい」と胸を張って話している先生を見て、自分の仕事に誇りをもっていると感じました。私も誇りをもてるような仕事が見つかるといいです。
- 話を聞いていて、命の大切さを知りました。どんな小さな命でも、寿命が短い命でも、みんな同じ大切さで、一つ一つが本当に大切な存在



獣医師による説明の様子

だと思いました。とっても勉強になりました。

- 今日獣医の仕事、動物の命の大切さについて教えていただきありがとうございました。私はペットを飼ったことがなかったのであまり動物について考えたことがありませんでしたが、先生のお話を聞いて動物の大切さを改めて考えさせられました。そして、私もペットを飼ってみたいなあと思いました。



## 2 練馬区立豊溪小学校 ～生活科「いきものとなかよくなろう」～

実施期間：平成 26 年 5 月 21 日（水）から

実施対象：第 2 学年（77 名）

動物：モルモット（2 匹）

### 【実践の概要】

第 2 学年の生活科「いきものとなかよくなろう」の単元において、学校担当獣医師と連携しながら、各学級 1 匹のモルモットを継続的に飼育した。

学級への動物の受け入れやその動物の生態の理解や飼育方法について、児童が学校担当獣医師から指導を受ける時間を設定した。



モルモットのケージの掃除の様子

#### (1) モルモットの受け入れ

実施日：平成 26 年 5 月 21 日（水） 9:40～10:25（第 2 校時）

学級にモルモットが来ることを知り、モルモットを迎えるためにはどんな準備が必要かを考える活動を行った。

#### (2) モルモットの生態

実施日：平成 26 年 6 月 20 日（金） 11:35～12:20（第 4 校時）

モルモットは本来どのようなところに生息し、どのような環境を好むのか、そのためにどのような飼育環境を用意したらよいのか、学校担当獣医師から話を聞き、考える活動を行った。

#### (3) モルモットの観察

実施日：平成 26 年 6 月 25 日（水）

9:40～10:20（第 2 校時）

生後約 1 か月のモルモットの赤ちゃんをよく観察し、体の特徴に気を付けてスケッチをした。



モルモットの観察記録

#### (4) モルモットの飼育①

実施日：平成 26 年 6 月 27 日（金）

13:45～14:30（第 5 校時）

学校担当獣医師から、生後約1か月のモルモットの抱き方、触り方、世話の仕方について指導を受けながら体験する活動を行った。

(5) モルモットの飼育②

実施日：平成26年7月17日(木) 13:45～14:30 (第5校時)

今までのモルモットの飼育方法について振り返り、更に改善するところはないか、分からないことはないか、学校担当獣医師から助言を受けながら考える活動を行った。

(6) モルモットの飼育③

実施日：平成26年9月22日(月) 13:45～14:30 (第5校時)

(5)と同様に、今までのモルモットの飼育方法について振り返り、学校担当獣医師から助言を受けながら考えた。また、冬を迎えるにあたり、どのような準備をすればよいか話し合った。

### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師と学級担任は、飼育と授業を充実させるため、上記日程のほかに、飼育環境や指導内容について、事前に打ち合わせを行った。

また、保護者には、土日祝日及び長期休業期間中のモルモットの世話についてアンケートをとり、児童と一緒に掃除や餌やりなどを行うことを依頼した。

### 【児童の反応】

- 動物の専門家である学校担当獣医師からの助言を受けたことにより、動物の生命を預かって飼育していることを理解し、生命の大切さを考えながら日々の世話を行うことができるようになった。
- 1学級で1匹のモルモットの世話を、児童主体で行っている。最初は学級担任に補助されながら掃除等を行っていたが、2～3か月经つと児童だけで掃除ができるようになった。その際、モルモットがケージの中で過ごしやすいう、水飲み器の高さを調整したり、餌置きを工夫したりする姿が見られるようになってきた。
- 当初は、掃除の際、糞や尿で汚れたペットシートを嫌がって触りたがらない児童が多かったが、現在はそれらに抵抗なく、素早くケージの掃除ができるようになった。また、当初モルモットを怖がって、触ったり、抱いたりできなかった児童も、ケージ掃除などでモルモットと触れ合う活動を通して、徐々になでたり、抱っこできたりするようになってきた。
- ケージの掃除を行うと同時に、モルモットの様子についての簡単な日記を付けている。餌をちゃんと食べているか、糞や尿に異常は無いかなどを児童がチェックし、少しでもいつもと違うところや疑問に感じたことがあれば、すぐに学級担任まで報告しにくるなど、モルモットの健康を気遣う姿が見られた。





### 3(1) 立川市立けやき台小学校

～第2学年における生活科と国語科を関連させた指導～

実施日：平成26年10月7日（火）、10日（金）、23日（木）  
13:45～14:30（第5校時）

実施対象：第2学年（78名）

動物：ウサギ（1羽）、チャボ（3羽）



ふれあいタイムでチャボを抱く様子

#### 【実践の概要】

第2学年の生活科「生きもの大すき」と国語科「生きもののことをせつめいしよう」を関連させた指導を行った。本実践では、ウサギやチャボと直接触れ合う「ふれあいタイム」を通して、生き物が自分と同じように成長して生きていることに気付く生活科の活動と、生き物を観察したり調べたりしたことを基にして、簡単な構成を考えて文や文章を書く国語科の活動を関連させた。

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師と多数の保護者の協力により、「ふれあいタイム」では、全ての児童が動物と直接触れ合うことができた。授業後には、学校担当獣医師と担当教員とで、今後の授業が更に充実した内容となるよう、授業の進め方や留意点などについて確認し合った。

#### 【児童の反応】

- 児童は、動物の心音を聴いたことで、動物にも自分たちと同じように心臓があり、鼓動していることに気付くことができた。
- 生き物に対して苦手意識があった児童も、動物の触り方について学校担当獣医師から具体的に教わることによって、生き物の温かさを感じる事ができた。
- 「動物は、言葉は話せないけれど、行動や表情で気持ちを伝えている。」という感想が児童から多数出ており、動物のことを思いやる気持ちが芽生えたと考えられる。
- 学校担当獣医師の専門的な指導の下、生き物との触れ合いを行ったことで、生き物への興味が高まり、さらに詳しく調べようという意欲につながった。

### 3(2) 立川市立けやき台小学校

～第1学年における生活科と国語科を関連させた指導～

実施日：平成27年1月15日（木）、22日（木）、29日（木）  
13:45～14:30（第5校時）

実施対象：第1学年（85名）

動物：ウサギ（1羽）、チャボ（1羽）

### 【実践の概要】

第1学年の生活科「生きもの大すき」と国語科「だれがたべたのでしょうか」を関連させた指導を行った。本実践では、「かんさつタイム」を設定し、生き物をじっくり観察し、興味・関心を高める生活科の活動と、身近な生き物について相手に分かりやすく伝えるよう、順序を考えて紹介したり、まとめたりする国語科の活動と関連させた。



かんさつタイムでウサギが餌を食べる様子を見る第1学年児童

### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師の助言を受けながら、全校児童を対象にアレルギー調査を行った。

また、学校担当獣医師と相談しながら、児童の発達段階に応じた動物の説明スライドを準備した。



第1学年児童の観察カード

### 【児童の反応】

- 「かんさつタイム」において、生き物をじっくりと観察したことは、羽の色の違いや糞(ふん)の状態、耳の血管の様子など細かいところまで気付くことができ、生き物に対する興味・関心が高まった。
- 「かんさつタイム」では、ウサギやチャボが食べる物や食べ方に違いがあることなど細かなところまで観察していた。



第1学年児童の観察カード

## 3(3) 立川市立けやき台小学校

### ～きこえとことばの教室における「READプログラム」の実践～

実施日：平成26年11月20日(木) 14:30～15:00

平成26年11月27日(木) 14:00～14:30

平成27年2月12日(木) 14:00～15:30

実施対象：第3・5学年(2名)

動物：ウサギ(1羽)

### 【実践の概要】

「READプログラム」とは、ウサギなどの飼育動物に読み聞かせを行うアメリカで実践されている教育活動である。静かに聞いてくれる動物に対して読み聞かせを行ったり、積極的に動物と関わったりすることによって、児童の情緒が安定し、読みの力が向上するという報告がされている。

学校担当獣医師からの提案で、本校に設置しているきこえとことばの教室において、

情緒の安定、コミュニケーション能力の向上を目指し、本プログラムを試みた。

前半は、ウサギに読み聞かせを行った。活動前には、ウサギに読み聞かせをすることをイメージして、どのようなことに気を付けて本を読めばよいのか考えながら本の選定を行った。

また、後半は、学校担当獣医師からウサギの特徴や扱い方、本校のウサギの個性等について説明を聞き、ウサギを抱くなどの触れ合い活動を行った。

活動後、児童は実際に読み聞かせをして感じたことやウサギと触れ合ったことについて教員と話し合った。



ウサギに読み聞かせをする様子

### 【学校担当獣医師との連携】

学校担当獣医師から、児童及び教員に対して飼育しているウサギへの接し方や特徴についての説明があった。また、ウサギの健康や飼育状況についても助言を受けた。

### 【児童の反応】

- 読み聞かせをするときに、ウサギに本を向けて読み聞かせをしたり、読み方を考えたりするなど、相手意識をもって活動することができていた。
- 読み聞かせの際の読み方では、「優しい感じ」になるように、声の大きさを抑えたり、声のトーンに気を付けたりしていた。
- 触れ合い活動では、動物に直接触れ合うことで穏やかな気持ちになり、そのことがコミュニケーションの取り方を考えることにつながっていた。



## 4(1) 小平市立小平第六小学校 ～第2学年生活科「動物となかよし」～

実施日：平成26年10月24日（金）13:35～14:20（第5校時）

平成26年10月27日（月）11:35～12:20（第4校時）

平成26年10月27日（月）13:35～14:20（第5校時）

実施対象：第2学年1組（31名）、2組（31名）、3組（31名）

動物：ウサギ（3羽）、チャボ（2羽）、モルモット（2匹）

### 【実践の概要】

第2学年の生活科「動物となかよし」の単元において、学校担当獣医師から動物の抱き方について指導を受けた後、児童全員が膝の上に動物を載せて抱く活動を行った。



飼育動物と触れ合っている様子

## 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

授業を充実させるため、学校担当獣医師と学級担任は事前の打ち合わせを行った。打ち合わせ後は、詳細についてファクシミリや電話で確認した。

また、学校担当獣医師の助言により、当日の手伝いを保護者に依頼した。さらに、授業前には、協力いただく保護者が学校担当獣医師から動物の衛生管理について説明を受けるようにした。

## 【児童の反応】

- 児童は、動物と人間の心臓の音を比較しながら聴くことで、心拍の速さが違うことに気付いた。また、小さな動物は心臓が小さいので、体全体に血液を送るためには、心拍が速くなければならないことを学校担当獣医師から教えてもらい、児童は驚いていた。児童は、小さな動物が心拍が速い分、寿命が短いことを知り、飼育している動物への思いが強くなった。
- 児童は、優しい気持ちで動物を抱くことで、動物も怖がらず、暴れることなくおとなしく抱かれることや、座って動物を抱くことにより、動物のけがを防ぐことができることを学んだ。初めは動物を怖がっていた児童もいたが、慣れるにしたがって嬉しそうなる表情が見られるようになった。
- 本単元を通して、相手のことを思って行動する気持ちの大切さは、人も動物も同じであることを学んだ。

## 4(2) 小平市立小平第六小学校

～理科及び総合的な学習の時間を関連させた学習「いのちの学習」～

実施日：平成26年10月30日（木）9:35～11:30（第2・3校時）

実施対象：第4学年（96名）

動物：ウサギ（3羽）、チャボ（2羽）、モルモット（2匹）

## 【実践の概要】

第4学年の理科と総合的な学習の時間を関連付けて「いのちの学習」として、児童が動物と直接触れ合う活動を取り入れた。

学校担当獣医師が動物の体について話をした後、動物と人間の心音を聴き比べた。また、児童全員が膝の上に動物を載せて抱いた。



ウサギの心音を聴いている様子

## 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

授業を充実させるため、学校担当獣医師と学級担任は、事前に打ち合わせを行うとともに、学校担当獣医師が関わる授業日には次回の準備等の確認を行った。

また、4(1)の生活科と同様に、保護者に協力を依頼した。さらに、授業前には、保護者が学校担当獣医師から動物の衛生管理について説明を受けるようにした。



## 【児童の反応】

- 児童は、人間の体と動物の体に、似ている部位や異なる部位があることを学び、驚いていた。
- 「いのちの学習」を行った後は、以前にも増して理科の学習に熱心に取り組む児童が出てきた。
- 「いのちの学習」において、学校担当獣医師からウサギの体の仕組みについて説明があったことは、理科の「わたしたちの体と運動」の理解が深まることにつながった。



## 5(1) 多摩市立多摩第一小学校 ～生活科「動物と触れ合おう（ヤギ）」～

実施期間：平成 26 年 10 月～11 月、2 月～3 月

実施対象：第 1・2 学年（253 名）

動物：ヤギ（2 頭）

### 【実践の概要】

第 1・2 学年の生活科「動物と触れ合おう」の単元でヤギとの触れ合いを計画した。

児童は、10 月～11 月に 1 学級ずつ、ヤギの世話の仕方について校長から説明を受け、ヤギ広場に入り、餌やりやブラッシングを行った。また、休み時間にも餌やりをして、ヤギと触れ合う機会をつくった。4 月の出産に向けて児童の意識付けを図るため、2 月・3 月にもヤギと触れ合う機会を設定した。



ヤギ広場の様子

### 【学校担当獣医師との連携】

夏季休業期間中に第 1・2 学年の学級担任を対象とする研修会を開催した。学校担当獣医師からヤギの習性や接し方、飼育の方法、児童が世話をする際の注意点等について指導を受けた。

### 【児童の反応】

- ヤギを怖がって近寄れない児童はいたが、どの児童もヤギ広場に入ることができ、ヤギが過ごす場所を体感することができた。
- ヤギのことが身近になり、休み時間に自主的に餌をあげる児童が出てくるようになった。
- 4 月の出産を控えたヤギの世話を通して、児童は、出産を身近に感じ、誕生の喜びや生命の尊さを学んだ。

## 5(2) 多摩市立多摩第一小学校 ～生活科「動物と触れ合おう（小動物）」～

実施日：平成26年11月25日（火）

実施対象：第1学年児童

動物：ウサギ（1羽）、モルモット（2匹）、  
ウズラ（2羽）、パンダマウス（2匹）



パンダマウスに触れている様子

### 【実践の概要】

第1学年の生活科「動物と触れ合おう」の単元において、学校で飼育しているヤギ以外の動物（4種類）に親しみをもって関わらせることで、動物への興味を高め、生命の尊さを実感できるようにした。

#### （1）動物との触れ合い

学校担当獣医師と保護者から協力を得ながら、多くの児童が動物と触れ合えるようにした。教室では、学校担当獣医師が動物のストレスに配慮しながら、その動物の生態などについての説明を行った。また、動物も人間と同じように心臓があることを知るため、聴診器を使って心臓の音を聴けるようにした。さらに、怖がる児童に対しては保護者が動物を抱える手助けをすることで、児童が安心して動物と触れ合えるようにした。

#### （2）動物質問教室

動物との触れ合った後の児童の感想文には、動物に対する多くの質問が出てきた。そこで、後日、学校担当獣医師が児童の質問に答える動物質問教室を設定した。映像等を使って分かりやすく解説してもらえよう、質問事項については学校担当獣医師に事前に渡しておいた。

### 【学校担当獣医師との連携】

事前の打合せでは、学校担当獣医師と学級担任が、飼育方法や注意事項、動物アレルギーへの対応等について話し合った。また、学校担当獣医師の助言により、保護者に協力を依頼したところ、20名を超える保護者の協力を得ることができた。

児童数が多いことから、学校担当獣医師が市内の獣医師に声をかけ、学校担当獣医師以外の獣医師からも協力を得ることができた。このことにより、児童は各学級において獣医師から直接指導を受けることができた。

### 【児童の反応】

- 「動物は温かかった」「心臓の音が聞こえた」など、興奮気味に感想を話す児童が大勢いた。
- 小動物に触れたことで、多くの児童に様々な疑問が芽生えた。「なぜ、しっぽがあるのか」「どうして耳が大きいのか」「鳥の足はどうして、細いのか」等の疑問に獣医師が丁寧に答えてくれたことで、児童は、動物と人間の同じところ、違うところについて驚きを感じながら学校担当獣医師の話聞いていた。

### 5(3) 多摩市立多摩第一小学校 ～理科「わたしたちの体と運動」～

実施日：平成26年10月14日（火）

13:30～14:15（第5校時）

実施対象：第4学年（130名）

#### 【実践の概要】

第4学年の理科「わたしたちの体と運動」の単元において、学校担当獣医師から人間や動物の体はどんなつくりで、どのような仕組みで動いているのか、その筋肉の動きや骨格の形について、専門的な説明を受け、人間や動物の体のつくりと運動について理解を深めた。



獣医師が説明している様子

#### 【学校担当獣医師との連携】

学校担当獣医師と学級担任は、単元の学習内容と実施方法について打合せを行った。第4学年の児童にとって分かりやすい内容となるよう、学校担当獣医師から専門的な視点を交えて、話してもらうこととした。

#### 【児童の反応】

- 身近な動物の例を挙げながら、獣医師の専門的な視点からの説明を受けたことで、多くの児童が動物の体のつくりや運動についての理解を深め、興味を高めた。
- 児童は、学級で飼育している動物や学校にいるヤギの体のつくりに興味をもつようになり、熱心に観察をする児童や、積極的に関わりをもとうとする児童が増えた。

